

防災気象情報の伝え方の改善策と推進すべき取組（2）

過去事例の引用

令和2年8月7日

説明の流れ

➤ 背景

- ✓ 気象庁「住民向けアンケート調査」

➤ 課題

➤ 改善策

- ① 記者会見資料の改善
- ② 記者会見から地域の情報へ誘導、地域の解説強化

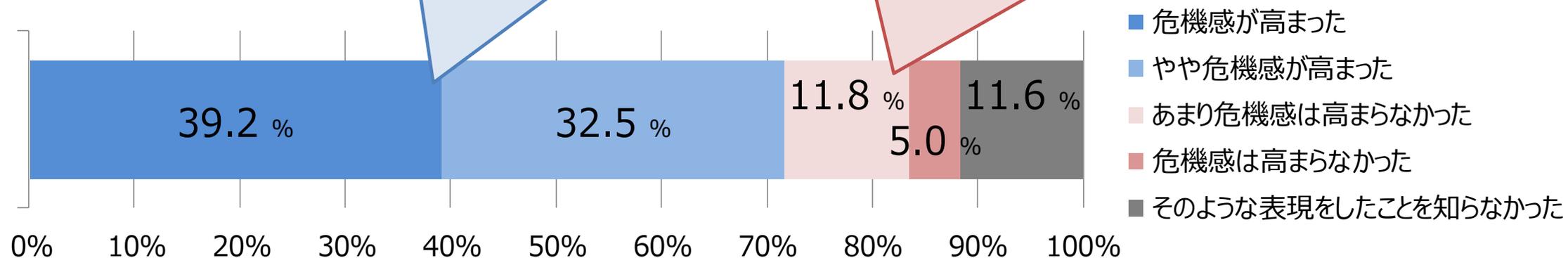
➤ まとめ

背景 – 気象庁「住民向けアンケート調査」–

令和元年東日本台風で気象庁が用いた「狩野川台風に匹敵する記録的な大雨」という表現についてどのように感じましたか？

「危機感が高まった」「やや危機感が高まった」と約7割の住民が回答

約2割の住民が「危機感が高まらなかった」、「あまり危機感が高まらなかった」と回答。



※「台風第19号等を受けたアンケート調査（Web）」結果より集計（回答数は2100）

➤ 台風第19号（令和元年東日本台風）の際に、「狩野川台風」を引用して記録的な大雨への警戒を呼びかけたが、強い危機感が伝わっていない地域もあった。

改善策① – 記者会見資料 –

➤ 特定の地域のみで災害が起こるかのような印象を与えないよう、災害危険度が高まる地域を示す等、地域に応じた詳細かつ分かりやすい解説を併せて実施。

実際の記者会見資料

伊豆に加えて関東地方でも土砂災害が多発し、河川の氾濫が相次いだ、昭和33年の狩野川（かのがわ）台風に匹敵する記録的な大雨となるおそれもあります。

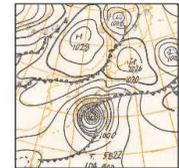
(参考) 狩野川台風 昭和33年(1958年) 9月26日～9月28日

- 東京で日降水量371.9mmを観測するなど、東海地方と関東地方では大雨となり、土砂災害や河川の氾濫が相次いだ。
- 伊豆半島中部では、特に集中して雨が降り、大量の水が流れ込んだ狩野川が氾濫。
- 神奈川県や東京都でも、市街地の浸水や造成地のがけ崩れなどにより、大きな被害があった。

被害の状況

死者888名、行方不明者381名、負傷者1,138名
 住家全壊2,118棟、半壊2,175棟
 床上浸水132,227棟、床下浸水389,488棟など
 (消防白書より)

天気図 (昭和33年9月26日09時)



当時の降水量

地点名	最大日降水量		日降水量の極値順位 (通年)
	mm	月日	
大島 (東京都大島町)	419.2	9月26日	第3位
東京 (東京都千代田区)	371.9	9月26日	第1位
秩父 (埼玉県秩父市)	288.7	9月26日	第7位
横浜 (横浜市中区)	287.2	9月26日	第1位
熊谷 (埼玉県熊谷市)	277.2	9月26日	第3位
館野 (茨城県つくば市)	230.1	9月26日	第3位

改善後の記者会見資料案

昭和33年の狩野川（かのがわ）台風に匹敵する記録的な大雨となるおそれもあります。関東甲信地方、東北地方を中心に、大雨災害発生の危険度が高まる見込みです。

(参考) 狩野川台風 昭和33年(1958年) 9月26日～9月28日

- 東京で日降水量371.9mmを観測するなど、東海地方と関東地方、東北地方では大雨となり、土砂災害や河川の氾濫が相次いだ。
- 伊豆半島中部では、特に集中して雨が降り、大量の水が流れ込んだ狩野川が氾濫。
- 神奈川県や東京都でも、市街地の浸水や造成地のがけ崩れなどにより、大きな被害があった。

※ 当時の被害の状況とまったく同じ状況にはならないことに留意。

被害の状況

死者888名、行方不明者381名、負傷者1,138名
 住家全壊2,118棟、半壊2,175棟
 床上浸水132,227棟、床下浸水389,488棟など
 (消防白書より)



※ 東京都北区がけ崩れの状況

当時の降水量

※ 主な観測点における値

地点名	最大日降水量		日降水量の極値順位 (通年)
	mm	月日	
大島 (東京都大島町)	419.2	9月26日	第3位
東京 (東京都千代田区)	371.9	9月26日	第1位
秩父 (埼玉県秩父市)	288.7	9月26日	第7位
横浜 (横浜市中区)	287.2	9月26日	第1位
熊谷 (埼玉県熊谷市)	277.2	9月26日	第3位
館野 (茨城県つくば市)	230.1	9月26日	第3位

※ その他の観測点における値

地点名	最大日降水量	
	mm	月日
湯ヶ島 (静岡県)	691.0	9月26日
富岡 (福島県)	371.9	9月26日
尾島 (群馬県)	288.7	9月26日
巨理 (宮城県)	287.2	9月26日
日光花石 (栃木県)	277.2	9月26日
菅代 (岩手県)	240.0	9月26日

引用した災害と全く同じ状況にはならないことを併せて解説

改善策② – 記者会見から地域の情報へ誘導、地域の解説強化 –

➤ 過去事例を引用した本庁記者会見等の中で、住民等が地元に特化した情報を取得するよう呼びかけるとともに、住民等により危機感が伝わるよう地元気象台等における地域に応じた詳細かつ分かりやすい解説を強化。

気象庁本庁は記者会見等を通じて
報道のきっかけを提供



全国を対象とした本庁記者会見等から
地元気象台等が発信する地域に応じた
詳細かつ分かりやすい解説に誘導

関係機関と連携して地域に密着した情報発信を強化



気象台等は地域に密着した情報発信を強化

平成30年 台風第24号に関する愛媛県気象情報 第9号
平成30年9月30日18時40分 松山地方気象台発表
(見出し)

西条市と東温市を中心に、過去の重大な土砂災害発生時に匹敵する極めて危険な状況となっています。土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所に移るなど、躊躇なく適切な防災行動をとってください。

松山
(地方気象台発表の
気象情報)

課題

- 気象庁では過去事例を用いて災害への備えを呼びかけているが、強い危機感が伝わっていない地域もあった。

改善策 (今出水期より開始)

- 本庁が行う記者会見において、特定の地域のみで災害が起こるかのような印象を与えないよう解説を実施するとともに、地元の特化した情報を取得するよう呼びかけ。
- 地元気象台等においても、地域に応じた詳細かつ分かりやすい解説を強化。

➡ **より多くの方が、気象庁が発表する気象情報を「我が事感」を持って有効に活用してもらえることを期待。**